

成田 達輝 Tatsuki Narita (Violin)

1992 年生まれ。札幌で 3 歳よりヴァイオリンを始める。2010 年ロームミュージックファンデーション奨学生に選ばれる。ロン＝ティボー国際コンクール (2010) エリザベート王妃国際音楽コンクール (2012)、仙台国際音楽コンクール (2013) でそれぞれ第 2 位受賞。これまでに、ペトル・アルトリヒテル、オーギュスタン・デュメイ、ピエタリ・インキネンなど著名指揮者および国内外のオーケストラと多数共演している。現代の作曲家とのコラボレーションも積極的に行っており、特に酒井健治とは関係が深く、ヴァイオリンとピアノのための CHASM を委嘱したほか、サントリー芸術財団サマーフェスティバルで成田が演奏した酒井健治作曲のヴァイオリン協奏曲“G 線上で”は芥川作曲賞を受賞した。2017 年 11 月には一柳慧作曲のヴァイオリンとチェロのための二重協奏曲を世界初演 (チェロ：堤剛)。これまでに、澤田まさ子、市川映子、藤原浜雄、ジャン＝ジャック・カントロフ、スヴェトリン・ルセフ、フローリン・シゲティ、田中綾子の各氏に師事。リリースした CD は「成田達輝デビュー！サン＝サーンス、フランク、フォーレ、パガニーニ」 (ピアノ：テオ・フシュヌレ)。海外での演奏活動も積極的に行っており、2018 年 8 月と 2019 年 2 月には韓国平昌で行われた音楽祭に参加し、ソン・ヨルム、スヴェトリン・ルセフらと共演。2018 年にはミンスクで行われたユーリ・バシュメット音楽祭にも参加している。使用楽器は、アントニオ・ストラディヴァリ黄金期の“Tartini” 1711 年製。(宗次コレクションより貸与)。

(2019 年 12 月現在 680 文字)

成田 達輝 Tatsuki Narita (Violin)

1992 年生まれ。札幌で 3 歳よりヴァイオリンを始める。

ロン＝ティボー国際コンクール (2010) エリザベート王妃国際音楽コンクール (2012)、仙台国際音楽コンクール (2013) でそれぞれ第 2 位受賞。

これまでに、ペトル・アルトリヒテル、オーギュスタン・デュメイ、ピエタリ・インキネンなど著名指揮者や国内外オーケストラと多数共演している。

2018 年 8 月と翌 2 月に韓国で行われた平昌音楽祭に参加し、ソン・ヨルム、スヴェトリン・ルセフらと共演。2018 年にはミンスクで行われたユーリ・バシュメット音楽祭にも参加している。

使用楽器は、アントニオ・ストラディヴァリ黄金期の“Tartini” 1711 年製。(宗次コレクションより貸与)。

(2019 年 12 月現在 310 文字)

*プロフィールの一部を使用する場合、日数が経過している場合は、ジャパン・アーツの校正チェックをお受け頂きますようお願い申し上げます。

Tatsuki Narita (Violin)

Tatsuki Narita was born in 1992. He began his violin studies in Sapporo at the age of three. In 2010, Narita was selected as a scholarship student of the Rohm Music Foundation.

In 2010, he won 2nd Prize in the Concours International Marguerite-Long-Jacques-Thibaud. In 2012, he won 2nd Prize in the Concours Reine Elisabeth en Belgique, and in 2013 he was awarded 2nd Prize in the Sendai International Music Competition.

Tatsuki Narita has performed with many orchestras and conductors, including Petr Altrichter, Augustin Dumay, and Pietari Inkinen.

Narita collaborates frequently with contemporary classical composers. He commissioned the work “CHASM for Violin and Piano” from the contemporary classical composer Kenji Sakai; and at the Suntory Foundation for Arts Summer Festival he performed Sakai’s violin concerto “On a G String,” which earned the Akutagawa Award for Composition.

In November 2017, Narita gave the world premiere of Toshi Ichianagi’s composition “Double Concerto for Violin and Cello and Orchestra” (with Tsuyoshi Tsutsumi on cello).

Tatsuki Narita has studied with Masako Sawada, Eiko Ichikawa, Hamao Fujiwara, Jean-Jacques Kantorow, Svetlin Roussev, Florin Szigeti, and Ayako Tanaka.

His CD releases include Tatsuki Narita Debut - Saint-Saens, Franck, Faure, Paganini (Pf: Théo Fouchenneret).

In August 2018, Narita performed with Yeol-Eum Son, Svetlin Roussev and others at the 15th PyeongChang Music Festival & School held in Korea. He also appeared at Yuri Bashmet International Music Festival in Minsk.

Tatsuki Narita plays the 1711 “Tartini” from the golden age of Stradivarius, on loan from the Munetsugu Collection.

(Dec 2019)

2019/20 season only. Please contact Japan Arts if you wish to edit this biography.